



ニュースレター

News Letter GUNMA INSECT WORLD

昆虫



の森

2025 No.43

ぐんま



群馬県立ぐんま昆虫の森 開園20周年

群馬県立ぐんま昆虫の森は、里山の自然環境の中で昆虫などの生き物とふれあい、生命の尊さや自然の大切さなどを体験できる教育施設として2005(平成17)年8月1日に全面オープンし、多くの方々のご支援により今年の8月で開園20周年を迎えます。

ぐんま昆虫の森では、約45haのフィールドを利用した自然観察会や里山歩き、里山生活体験など、里山の生き物や自然を知り、人と自然の調和のとれた暮らし方を学び、考えるためのプログラムを実施しています。また、昆虫観察館では日本の原風景である里山の昆虫や世界の昆虫などの生体展示や昆虫の生活史や生態、昆虫の自然環境についての解説パネルをはじめ、亜熱帯の環境をモデルとしたチョウの舞う温室を通じて多様な環境を知るための展示を行っています。他にも昆虫をモチーフにした簡単な工作ができるクラフトコーナーや昆虫や生き物などの図書を閲覧できるフォローアップ学習コーナー、ミュージアムショップなどの魅力が一杯です。

今後もぐんま昆虫の森では、来園者の方が楽しみながら学べる施設を目指していきます。



第 22 回企画展

『ぐんま昆虫の森 企画展 20 年のあゆみ』

ぐんま昆虫の森は、今夏に開園満 20 年を迎えます。そこで 20 年間の企画展などを振り返る、第 22 回企画展『ぐんま昆虫の森企画展 20 年のあゆみ』を開催します。

ぐんま昆虫の森では 2005（平成 17）年 8 月にオープンし、開園記念特別展「東京芸術大学学生による小さくても大きな虫たち」展を皮切りに、第 1 回企画展「里地～人と虫をささえる場所～」から 2024（令和 6）年の第 21 回企画展「たのしい昆虫飼育 Part 2」まで様々な企画展や特別展などを開催してきました。これらの展示の中から、毎年開催している季節展「昆虫たちの季節がやってきた！早春編、初夏編」、「秋の野山の昆虫展」、「冬越しの昆虫展」および夏の特別展「カブト・クワガタ展」を除いた企画展、テーマ展、ミニ展示を紹介します。

これまでチョウやカブトムシ、クワガタムシ、水生昆虫、イモムシ・ケムシ、カメムシ、セミなどの昆虫をはじめ、ダンゴムシ、クモなど身近な生き物にスポットをあてた内容もあれば、鳥と昆虫の食べる・食べられるの関係や群馬の昆虫、ボルネオの自然と昆虫、昆虫の進化、昆虫食、新種発見、絶滅危惧種、昆虫飼育などのテーマを持った内容などバラエティに富んだ企画展を開催してきました。本企画展では、20 年の間に行われたぐんま昆虫の森の企画展をパネルや標本などで紹介します。（金杉）

会期：2025（令和 7）年 7 月 12 日（土）～10 月 28 日（火）

開催場所：昆虫観察館本館 3 階展示ギャラリー

観覧料：無料（別途入園料が必要です）

第22回企画展

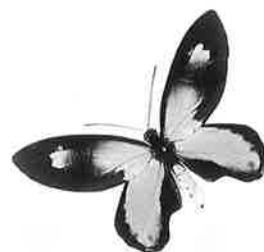


ぐんま昆虫の森 企画展

年のあゆみ

20 Years of Gunma Insect World : A Retrospective Exhibition

2025. 7.12(土) → 10.28(火)



昆虫の森の飼育昆虫の紹介

ミヤマクワガタ *Lucanus maculifemoratus* (コウチュウ目 クワガタムシ科)

ミヤマクワガタは日本では北海道、本州、四国、九州に分布しており、低山地の雑木林や山地のブナ林に生息しています。ミヤマという名前は「深山」からきていて、山地に多くいることからその名が付けました。クワガタの中でも暑さに弱く、25℃以上になると産卵や孵化が難しいと言われています。そのため、寒冷な地域では昼間に活動しますが、温暖な地域では夜行性の性質が強くなります。

オスの特徴として、大あごの湾曲や頭部の耳状突起がありますが、どちらも体が大きいほど強く発達し、小さいほど弱くなる傾向があります。新成虫（羽化して間もない個体）には全身に金色の毛が生えていますが、次第に抜けてしまいます。また、幼虫時期の温度によって大あごの形に変異があり、内歯の長さや形によって「基本型」「フジ型」「エゾ型」の3つに分かれます。

ぐんま昆虫の森では室温 23℃に設定した部屋でミヤマクワガタを飼育しています。ナナフシやカマキリなど他の昆虫を飼育している部屋と比べると、この部屋は特別涼しく管理されています。本園で飼育しているミヤマクワガタは基本型なので、第1内歯と第3内歯の長さがほぼ等しく、先端の開き幅が中くらいという特徴があります。

先日お客様より珍しいミヤマクワガタを寄贈していただきました。奇形と呼ばれる個体で、アゴが欠損しているもののそれ以外は雄の特徴を有しています。幼虫の生育環境や蛹室の環境、遺伝的な要因など様々な理由が考えられていますが詳しくはわかりません。奇形の個体は寿命が短いことが多いため生きた姿をお見せすることはできませんが、いつか標本にして展示できればと考えています。

* 現在ミヤマクワガタの展示は行っていません。ご了承ください。

(澄川)



奇形のミヤマクワガタ

昆虫の森でナナフシモドキのオスを展示します

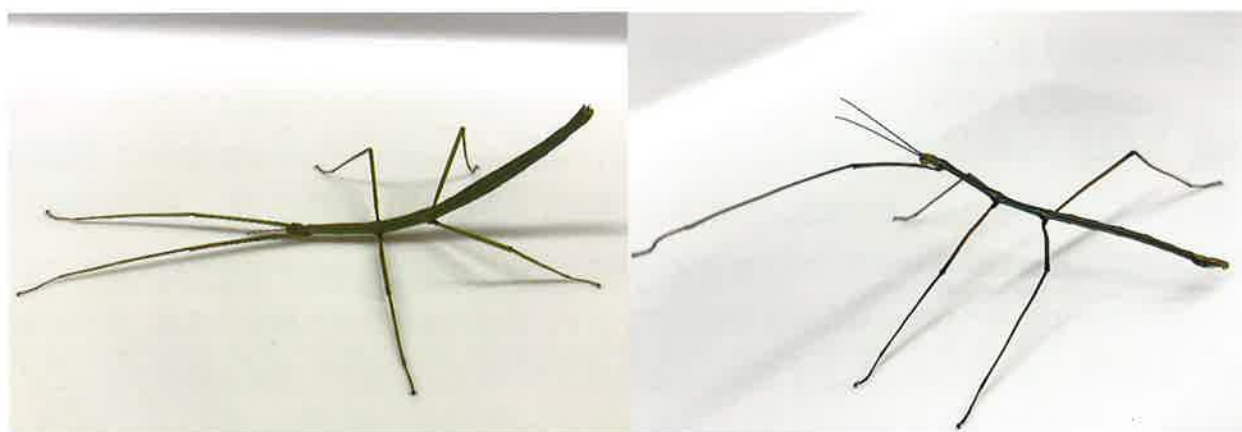
太田市にお住まいのお客様からナナフシモドキのオスが寄贈され、昆虫の森で展示する運びとなりました。まずはナナフシモドキがどんな昆虫なのかご紹介していきます。

ナナフシの仲間は細長い脚や体を生かして、植物の枝や葉に擬態をしています。ナナフシモドキはそんなナナフシの中でも最も普通に見られる種で本園でもその姿を見ることができます。翅や攻撃の手段を一切持たず、擬態することに特化した生態は非常に面白いですが、中でも特殊なのはその繁殖方法です。ナナフシモドキはほとんどメスしか産まれず、繁殖もメスのみで行います。オスと交尾をせずに産んだ卵は無精卵といって通常発生が進むことはありませんが、本種の場合は無精卵から幼虫が孵化します。その幼虫も成長した後同じように産卵を行い繁殖が続いていくのです。このような繁殖方法を「単為生殖」といいます。

ナナフシモドキのオスはメスと比べて細く、かなり華奢な印象があります。さらに体色は茶色で側面に白色帯が見られるので一目でメスとは違うことがわかります。また、オスの腹端には「把握器」と呼ばれる二股に分かれた器官があります。これはメスと交尾をする際に相手の体を掴むための器官ですが、最近の研究で交尾後の卵にオス由来の遺伝子が含まれていないことがわかっています。

ナナフシモドキはオスがごく稀にしか産まれないため非常に珍しく、群馬県内ではこれが4例目となります。1例目は2019年に開催したナナフシ飼育講座で配布した幼虫の中から発見されました。2例目は2021年に昆虫の森園内で、3例目は藤岡市内の方からご連絡いただき、オスの発見に至りました。

オスが死んでしまうと展示も終了となるため、展示期間は未定となっております。生きたナナフシモドキのオスを観察できる貴重な機会なのでぜひご覧ください。
(澄川)



ナナフシモドキのメス（左）とオス（右）

入園料

■一般…410円 ■高校生・大学生…200円 ■中学生以下…無料
※団体割引・年間パスポートあり。※障害者手帳をお持ちの方とその介護者1人は無料。

開園時間・入園時間

■4月～10月……9時30分～16時30分(入園は16時まで)
■11月～翌3月…9時30分～16時(入園は15時30分まで)

休園日

■月曜日(月曜が祝日の場合は翌日)、年末年始 12/27～1/9
展示入替のため休園することがあります。公式HPでご確認ください。

※昆虫など動植物の持ち帰りはできません。
※虫かごの持ち込みはできませんが、虫あみの持ち込みはできます。
※ゴミはお持ち帰りください。
※ペットを連れての入園はご遠慮ください。



ぐんま 昆虫の森
GUNMA INSECT WORLD

〒376-0132
群馬県桐生市新里町鶴ヶ谷460-1
TEL.0277-74-6441
FAX.0277-74-6466

アクセスマップ

